



東小だより

学校だより 4月号

H30. 4. 6

昭島市立東小学校

校長 瀧島 啓司

世界を見据え、子どもたちに「生きる力」を！

校長 瀧島 啓司

例年より早い春の訪れに、桜はピークを過ぎてしまいましたが、学校には元気な子どもたちの声と笑顔が戻ってきました。それぞれの入学・進級、誠におめでとうございます。

平成30年度がスタートし、今年度は47名の新入生を迎えました。5年生が1学級、他の学年はすべて2学級編制で、全校児童数259名の11学級と特別支援教室巡回指導拠点校（情緒）の大空学級とで出発しました。

私は、この4月に着任しました 瀧島 啓司（たきじま ひろし）と申します。前任校は、全校児童数が835名の世田谷区立明正小学校で、校庭があまり広いとは言えず、たくさん子どもたちが所狭しと遊んでいるような学校でしたが、東小学校は校庭がとても広く、地域にも公園があり、子どもたちと一緒に遊べるのをとても楽しみにしています。元々、私は青梅の出身で、教員としては青梅で5年、奥多摩5年、結婚して子どもができてからは練馬8年、行政に入り港6年、副校長で豊島2年、校長となり世田谷3年と後半は区部ばかりを回っていたので、やっと自分の地元に戻って来られて嬉しい毎日を過ごしています。

さて、ここで突然ではありますが、地名であり、本校の名前でもある『東』について考えてみたいと思います。『東』は太陽が昇ってくる方角、沖縄の方言で「アガリ」と言うそうです。平安時代、京都の貴族たちは関東のことを「あずま」と称していました。『東』は、「成長」や「繁盛」にも例えられ、部屋の間取りでも好まれており、大相撲でも『東』は「西」より格上とされています。特別な読み方としては、九州の国東半島にあるように「さき」といった先端をイメージさせるものもあります。ぜひ、子どもたちには自分の学校や地域をポジティブに捉え、誇りと愛着をもってもらいたいと願っています。

今年度もこれまで同様に「学力」「体力」「特別支援」この3つのキーワードを大切にしながら学校を運営してまいります。昭島市の中では、どれもトップの東小学校と聞いていますが、現状に満足することなく良いところはさらに改善し、東京で、日本で、そして世界で活躍できる人材を育てていきたいと考えています。これから21世紀を生きる子どもたちが「生きる力」「生き抜く力」を身に付け、平昌オリンピック・パラリンピックで得られた感動を、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、スポーツにとどまることなく、文化交流等も通し、さらに大きなものにできたらと思っています。

平成29年3月に新学習指導要領が告示され、小学校では、今年度から道徳が教科となり、外国語（英語）やプログラミングといった新しい教育も、本格的に始まることとなりました。しかし、その一方で「働き方改革」「ライフ・ワーク・バランス」といった声にも対応していかなくてはなりません。本校の教職員がストレスを抱えず、気持ちよく働ける環境を整え、それが結果として子どもたちの教育の充実につながるよう努めてまいります。

保護者・地域の皆様方におかれましては、今年度も東小学校の教育のため、子どもたちのために、これまで以上のご支援・ご協力をいただければ幸いに存じます。